

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和 7年10月 1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
岡山科学技術専門学校		昭和62年10月19日		大月秀之		〒 700-0032 (住所) 岡山県岡山市北区昭和町8-10 (電話) 086-255-7171			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人岡山科学技術学園		昭和62年10月19日		瀬戸川正彦		〒 700-0032 (住所) 岡山県岡山市北区昭和町8-10 (電話) 086-255-7171			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程	測量環境工学科		平成21(2009)年度		-		平成29(2017)年度	
学科の目的		国土交通省国土地理院の測量士補養成施設として、測量に関する専門知識や技術・技能を座学や実習を通して体験的に学習させ、実践力のある測量技術者の育成を目指す。また、広く環境土木工学を修めることにより、安全で安心な社会基盤の構築に寄与することを通して、社会に貢献できる土木建設技術者の育成を目指す。							
学科の特徴(取得可能資格、中退率等)		国土交通省国土地理院の第3号測量士補養成施設として認可を受けており、卒業時には国家資格の測量士補が取得できるほか、土木施工管理技士、管工事施工管理技士などの資格を目指す。令和6年度の中退者は無し。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2	年間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,920 単位時間 単位		1,485 単位時間 単位	0 単位時間 単位	435 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
50 人	22 人	0 人		0 %					
就職等の状況	■卒業生数(C) : 12 人								
	■就職希望者数(D) : 12 人								
	■就職者数(E) : 12 人								
	■地元就職者数(F) : 9 人								
	■就職率(E/D) : 100 %								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 75 %								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 %								
	■進学者数 : 0 人								
	■その他 : (令和 6 年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)								
	■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 株式会社大日本組、株式会社エフ・ケー・シー、西日本高速道路メンテナンス関西株式会社、株式会社光南、株式会社小野田工務所、株式会社エクセル調査設計、宮崎建設株式会社、株式会社巧和、浅野土地家屋調査士事務所、岡山県庁、倉敷市役所								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL	https://www.oist.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定) 総授業時数 : 1,920 単位時間 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 : 60 単位時間 うち企業等と連携した演習の授業時数 : 単位時間 うち必修授業時数 : 1,920 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 : 60 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 : 単位時間 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) : 単位時間								
	(B: 単位数による算定) 総授業時数 : 単位 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 : 単位 うち企業等と連携した演習の授業時数 : 単位 うち必修授業時数 : 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 : 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 : 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) : 単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) : 1 人								
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) : 2 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) : 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) : 0 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) : 0 人 計 : 3 人								
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					0 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科は、測量関連業界で活躍できる人材を育成するため関連企業との連携のもと、下記①～⑥の視点に基づき、業界の技術的動向や人材の育成にかかる情報等の収集や分析に努めるとともに、これらを踏まえた学科教育方針(教育課程や学習内容および育成する学生像等)を策定し、社会に貢献できる実践的技術者の育成を目標に専門教育を推進する。

また、教育活動の推進にあたっては、学生による授業評価や管理職による公開授業評価等に加え、関連企業等との協議(教育課程編成委員会等)を通して助言や提言をいただきながら、教育課程に関わる指導内容や指導方法について検証(PDCAサイクル)するとともに、検証結果に基づいて次年度の学科教育方針を策定する。

以上が、教育課程の編成に係わる企業等との連携の基本方針である。

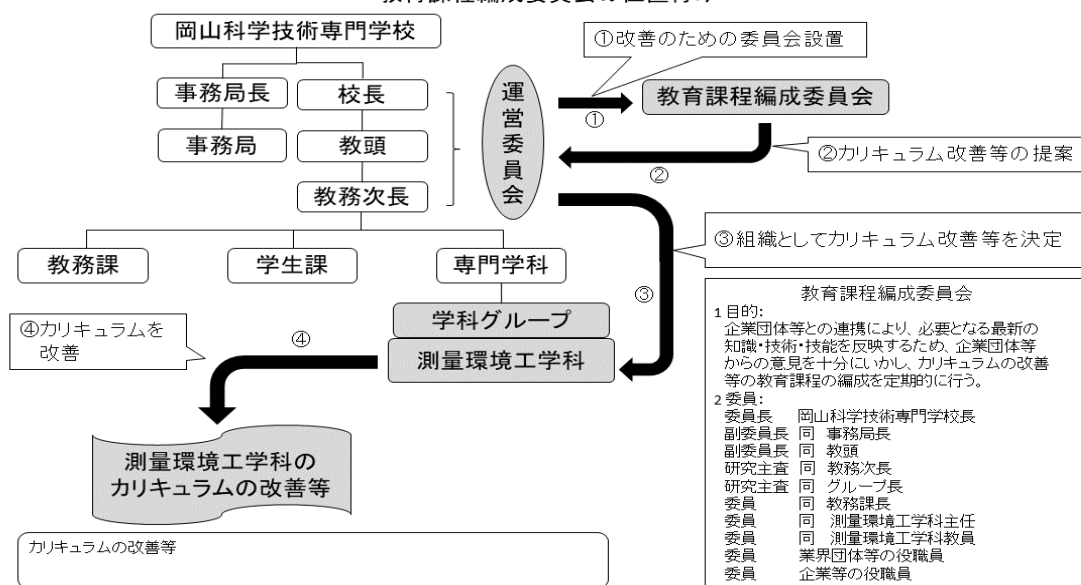
- ① 地域における測量関連業界の動向について
- ② 測量関連業界において人材に求められる専門性の動向について
- ③ 求められる実務に関する知識・技術・技能・資格等について
- ④ 測量関連業界が求める人物像について
- ⑤ 測量関連業界における人材育成について
- ⑥ 測量実習に関わる指導プログラムについて

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学園組織図の「職業実践専門課程推進委員会」の下部組織として位置づけ、下図に示すように①運営委員会の指示のもと、教育課程編成委員会において企業関係者等から意見を聴取するとともに、現行教育課程の検証を行い、必要に応じて②運営委員会に教育課程の改善等を提案する。③運営委員会において提案が妥当であると決定した後は、④測量環境工学科の学科教育方針の見直しを行い、座学および実習の指導内容等の改善を図る。なお、年度末の教育課程編成委員会においては改善後の評価等を実施するとともに、翌年度の教育課程の編成にいかす。

教育課程編成委員会の位置付け



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
大月 秀之	岡山科学技術専門学校 校長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	
小野 裕明	岡山科学技術専門学校 事務局長	〃	
平野 裕久	岡山科学技術専門学校 教頭	〃	
津田 恵美	岡山科学技術専門学校 教務次長 教務課長	〃	
森崎祐太郎	岡山科学技術専門学校 第2グループ長	〃	
宮近 淳一	岡山科学技術専門学校 測量環境工学科 主任	〃	
大塚 普久	岡山科学技術専門学校 測量環境工学科 教員	〃	
茗荷 翔太	岡山科学技術専門学校 測量環境工学科 教員	〃	
廣瀬総一郎	一般社団法人岡山県測量設計業協会 副会長	〃	①
天野 公雄	株式会社小野田工務所 代表取締役	〃	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回(5月～7月、2月～3月) (開催日時(実績)) 第1回 令和6年 7月17日(水) 13:30～15:00 第2回 令和7年 3月18日(火) 10:00～11:30								
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記 【提言】 ①ドローンの資格を取得して欲しい。 ②ドローンの操縦だけではなく、解析等を行うところまで踏み込んで教えて頂きたい。 ③建設業の仕事の重要性や「人の役に立つ仕事」ということを学生に伝え、建設業をアピールして欲しい。 【活用・改善】 ①資格取得費用が高額なので在学中の取得は難しい。この資格の重要性を説明し、取得を促す。 ②座学で基礎については教えています。操縦だけではなく解析まで行えるよう検討します。 ③授業を通じて建設業の重要性について話しています。実際の施工現場を見学して、アピールを続けていきます。								
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係 (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 本校では、学科教育は学科教育方針に基づき目指す学生像を到達目標におき教育活動を推進している。中でも、実習指導は実学主義の観点から、高度な技術・技能について指導する必要がある、企業との連携は不可欠である。そこで、企業との連携にあたっては、測量関連の業界において高い技術力を有するとともに、知識・技術・技能について指導力があり、技術者としての態度やマナー等の指導にも十分な理解と協力が得られること等を重視し決定する。 連携に基づく実習は、1年の科目「多角測量実習」とし、諸条件を満足する企業を選定するとともに、協定書等を締結し、これに則り実施する。以上が企業等との連携の基本方針である。								
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 ○連携企業の選定と協定:本学科の教育内容や方針に理解があるとともに、企業の業務内容が科目内容と一致することから、本学科の求める企業として、株式会社荒谷建設コンサルタントを選定した。実習内容については、特別講師と担当教員との間で 企業の専門的知見を活かした実習計画と評価項目を策定するとともに双方で職務内容等について確認して協定書を交わした。 ○連携企業:株式会社荒谷建設コンサルタント ○科 目 名:多角測量実習 ○連携内容:株式会社荒谷建設コンサルタントから招聘した特別講師が、担当教員と連携し1年後期の科目「多角測量実習」を3日(1日当たり4単位時間(1単位時間45分))指導する。 ○指導内容:指導にあたっては、継続して指導する部分を担当教員が担当し、各特別講師は、3回実習に加わり助言および指導にあたる。 ○評 価:実習終了時には、特別講師の評価を踏まえ、担当教員が評価基準に則り5段階で評価する。								
(3)具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。 連携企業の選定と協定 <table><tr><th>科 目 名</th><th>科 目 概 要</th><th>連 携 企 業 等</th></tr><tr><td>多角測量実習</td><td>セオライトの据え付け、角度・距離の測定、倍角差・観測差、距離の補正を求める方法、計算、また何故必要か等について学ぶ。</td><td>株式会社荒谷建設コンサルタント</td></tr></table>			科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	多角測量実習	セオライトの据え付け、角度・距離の測定、倍角差・観測差、距離の補正を求める方法、計算、また何故必要か等について学ぶ。	株式会社荒谷建設コンサルタント
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等						
多角測量実習	セオライトの据え付け、角度・距離の測定、倍角差・観測差、距離の補正を求める方法、計算、また何故必要か等について学ぶ。	株式会社荒谷建設コンサルタント						
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教職員の研修等については、本校教職員研修規程、ならびに下記(1)、(2)に示す研修項目に基づき、教職員の経験や能力に応じた研修計画を法人の指示のもと、教務において作成し学科主任ならびに関係教職員に受講させるものとする。受講を命じられた教職員はこれに参加し、専門職として求められる技術力や指導力の向上に努めなければならない。 研修成果は、報告書にまとめるとともに、内容によっては受講者が関係教職員に伝達講習し主旨等の徹底を図る。 また、教職員は、日頃より自己研鑽に励むとともに、指導力の向上に向けた授業研究や研究紀要への投稿等に取り組み、以て本校教育の充実・発展に資するよう努力することを基本方針とする。								
(1)測量関連分野における実務に関する研修等 ① 企業、団体が主催する専門技術研修 ② 企業から講師を招聘した専門技術研修 ③ 専門技術・技能の伝達講習 ④ 教員の技術レベルに応じた専門技術研修 (2)指導力の修得・向上のための研修等 ① 専修学校教員 教職課程研修 ② 企業、団体主催の指導力育成研修 ③ 外部講師による指導力育成研修 ④ 職務分掌上の業務に関する指導力育成研修								
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 (1)研修名:公益社団法人日本測量協会主催測量研修会 (連携企業等:公益社団法人日本測量協会四国支部) 期 間:令和6年4月19日(金) 対 象:測量環境工学科(茗荷翔太) 内 容:測量数学・誤差学の基礎								

(2) 研修名:建設コンサルタント会社との意見交換会 期 間:令和6年8月7日 対 象:測量環境工学科(大塚普久、宮近淳一、茗荷翔太) 内 容:測量・建設業関係の担い手確保と育成について	
②指導力の修得・向上のための研修等 (1) 研修名:「留学生との会話のポイント」(連携企業等:岡山科学技術専門学校教務部) 期 間:令和6年4月3日(水) 対 象:測量環境工学科(大塚普久、宮近淳一、茗荷翔太) 内 容:本校への留学生が増えてきている現状を踏まえ、日本語学科の佐藤先生が留学生との会話のポイント等について講義 (2) 研修名:「発達障害について」(連携企業等:広島大学大学院人間社会科学研究科 村上理絵助教) 期 間:令和6年8月22日(木) 対 象:測量環境工学科(大塚普久、宮近淳一、茗荷翔太) 内 容:広島大学大学院人間社会科学研究科の村上理絵助教が、発達障害を持つ学生への接し方等について講義	
(3) 研修名:「就職活動に向けて、今から実践! 社会人としての心構えとビジネスマナー」(連携企業等:岡山科学技術専門学校教務部) 期 間:令和6年9月6日(金) 対 象:測量環境工学科(大塚普久、宮近淳一、茗荷翔太) 内 容:①社会人の心構えについて ②姿勢とおじぎ、あいさつ	
(3) 研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 (1) 研修名:公益社団法人日本測量協会主催測量研修会 (連携企業等:公益社団法人日本測量協会四国支部) 期 間:令和7年7月29日(火) 対 象:測量環境工学科(茗荷翔太) 内 容:三次元点群測量 (2) 研修名:公益社団法人日本測量協会主催測量研修会 (連携企業等:公益社団法人日本測量協会四国支部) 期 間:令和7年8月6日(水) 対 象:測量環境工学科(大塚普久、茗荷翔太、宮近淳一) 内 容:スペース・ポータルin中四国(第10回)講演会 (3) 研修名:公益社団法人日本測量協会主催測量研修会 (連携企業等:公益社団法人日本測量協会四国支部) 期 間:令和7年8月21日(木) 対 象:測量環境工学科(茗荷翔太) 内 容:サーベアカデミー 3D地形点群モデル解析基礎技術 ②指導力の修得・向上のための研修等 (1) 研修名:「今から始める就職活動に向けたビジネスマナー」(連携企業等:岡山科学技術専門学校教務部) 期 間:令和7年9月5日(金) 対 象:測量環境工学科(茗荷翔太) 内 容:①社会人の心構えについて ②姿勢とおじぎ、あいさつ	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針 本校の学校関係者評価は、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について、学校関係者評価委員会において協議し、現状の課題や問題点を洗い出し、改善点等について助言や提言をいただくとともに、運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき具体案を作成する。これを以て次年度の学科教育方針の見直しや学校運営等の改善に取り組むことを基本方針とする。 特に、学科教育については、資格取得や進路状況の他、教育課程編成委員会からいただいた助言や提言に基づく改善点等についても協議し、学科改善の指針とする。 なお、自己点検・自己評価、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく自己評価表、学校関係者評価はホームページ上から公表する。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像 ②学校の特色 ③学校学科の将来構想
(2) 学校運営	①運営方針 ②事業計画 ③意志決定機能 ④人事・給与規程 ⑤情報公開 ⑥業務の効率化
(3) 教育活動	①教育理念に沿った教育課程 ②教育到達レベルや学習時間 ③カリキュラムの体系化 ④授業評価 ⑤成績評価・進級・卒業判定 ⑥資格取得の指導体制 ⑦教員の確保 ⑧教員の資質能力の向上 ⑨教員研修の実施
(4) 学修成果	①就職率 ②資格取得率 ③退学率の低減 ④卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	①進路・就職の支援体制 ②学生相談の体制 ③経済的支援の体制 ④健康管理体制 ⑤課外活動 ⑥学資負担者との連携 ⑦卒業生への支援
(6) 教育環境	①施設・設備の整備 ②学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修の教育体制 ③防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動 ②教育成果の伝達 ③学納金
(8) 財務	①中長期的財務基盤 ②予算・収支計画 ③会計監査 ④財務情報の公開体制
(9) 法令等の遵守	①法令・設置基準等の遵守 ②個人情報の保護 ③自己点検・自己評価の実施 ④自己点検・自己評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設の活用 ②学生のボランティア活動 ③公開講座、教育訓練の受託
(11) 国際交流	
※(10)及び(11)については任意記載。	

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校組織、教育活動方針、沿革、設置学科、学生数
(2) 各学科等の教育	・目指す学科像、育成する学生像、資格取得上の特典等
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・インターンシップ、進路講演会、企業説明会 ・教職員の研修会の参加、研究紀要
(5) 様々な教育活動・教育環境	・広報新聞、技術協議会、展示会、校外研修 ・スポーツクラブ、学生寮の整備
(6) 学生の生活支援	・アルバイトの紹介、教育相談、学生支援会、企業後援会 ・同窓会
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・奨学金制度
(8) 学校の財務	・資金収支計算書 ・貸借対照表

(9) 学校評価	・自己点検・自己評価 ・自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3) 情報提供方法 (○ホームページ ・広報誌等の刊行物 ・その他()) URL https://www.oist.ac.jp/	

授業科目等の概要

(工業専門課程 測量環境工学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			（前回 公費年		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			測量に関する法規	測量法の解説の中で測量法施行令、測量法施行規則を引用し、測量士の法律について学ぶ。	2前	30		○			○		○		
2	○			測量に関する数学Ⅰ・Ⅱ	三角関数および微分・積分について学習する。	1通2通	120		○			○		○	○	
3	○			測量に関する情報処理	地図情報処理に関する通信技術等について学ぶ。	1前	15		○			○		○		
4	○			測量学概論	測量・地図発達の歴史、我が国の測量体系、測量の基準、楕円体測地学の基礎、測量技術の概要、地球の物理と測量、最新の測量技術等について学ぶ。	1通	45		○			○		○		
5	○			三角測量	従来の三角法による三角測量の基本的な考え方、作業の方法、計算処理を学ぶ。	2前	30		○			○		○		
6	○			多角測量	高次の基準点を利用して、低次の基準点を設置する作業を実施するための、基本的な考え方、作業の進め方、データの取得法、又、その処理法を学ぶ。	1通	60		○			○		○		
7	○			汎地球測位システム測量	GPSの基本事項、基準点測量、リアルタイム・キネマテック法による測量、およびGPSに関する通信技術等について学ぶ。	2後	30		○			○		○		
8	○			水準測量	水準測量で使用する器械の点検・調整・観測方法および観測値の計算・処理法等について学ぶ。	1前	30		○			○		○		
9	○			地形測量	平板測量、TS・GPSによる地形測量、デジタルマッピング、GISについての基礎知識等について学ぶ。	1通	60		○			○		○		
10	○			写真測量	写真測量の歴史と理論を理解し、地形図の作製や、リモートセンシングについて学ぶ。	2通	60		○			○		○		
11	○			地図編集	地図の投影、UTMと平面直角座標、地理院の発行している地図とその利用について基本的な知識を学ぶ。	2後	45		○			○		○		
12	○			応用測量	路線測量の基礎から中心線設置計算の仕方と各種図形の面積の求め方および体積の求め方を学ぶ。	2通	60		○			○		○		
13	○			応用力学	力の種類と大きさ、方向、外力に対する安定条件、各種モーメント、内部応力などについて学ぶ。	1通	60		○			○		○		
14	○			水理学	水の物理的性質、静水圧、水の流れ、管水路、開水路について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
15	○			土質工学	土質力学の基本、土中の水の流れと毛管現象、地中の応力、土の圧密、土の強さ、土圧、地盤の支持力、斜面の安定について学ぶ。	1通	60		○			○		○	○	
16	○			地籍・補償	補償業務の中の用地補償に関連した項目について学ぶ。	2前	30		○			○		○		
17	○			河海工学	降雨量流出係数、合理式、治水、利水について学ぶ。	2前	30		○			○			○	
18	○			土地利用・地形分類調査	土地利用・地形分類調査の基礎を学び、空中写真と地図との土地利用・地形分類状況の照合を行いGIS技術を通じデータを整理して地形の把握を行う。	2後	30		○			○		○		
19	○			土木工学概論	社会基盤の構築の歴史的背景を学び、社会的基盤が人間の暮らしにどのように係わり、また、どのように発展し構築されるべきかを学ぶ。	2前	15		○			○		○		
20	○			各種計画(造園計画含む)	2級造園施工管理技士の学科試験に挑戦するための基礎知識を学ぶ。	1前	30		○			○		○		
21	○			土木施工法	土木施工における基礎知識を学ぶ科目で、土工、コンクリート工、基礎工、土木構造物、河川・砂防について学ぶ。	1通	60		○			○		○		
22	○			施工管理法Ⅰ・Ⅱ	道路・舗装、ダム、トンネル、海岸・港湾、鉄道・地下構造物、上下水道等の工事の施工管理、および、土木建設にかかる法規および管理方法について学ぶ。	1後2前	90		○			○		○		
23	○			鉄筋コンクリート工学	鉄筋コンクリート柱や単鉄筋長方形梁の設計方法、プレストレストコンクリート構造物の設計や基礎、および、擁壁の設計の基本について学ぶ。	2通	60		○			○		○	○	
24	○			交通工学	交通計画、道路、鉄道、港湾、空港、都市交通、交通環境について学ぶ。	2前	30		○			○			○	
25	○			橋梁工学	構造物の中でも代表的な橋梁について、その構造物について学ぶ。	2通	60		○			○			○	○
26	○			上下水道	水質、水処理工程の仕組み、浄化された水を安全かつ安定して供給する仕組み、および、発生した汚水および雨水を迅速かつ安定して排除する仕組み等について学ぶ。	1後	30		○			○			○	

27	○		環境工学	人々の生活環境の保全・改善を目的とした環境工学に関する基礎知識等について学ぶ。	2 前	15	○		○	○		
28	○		管工事Ⅰ・Ⅱ	管工事の一般基礎、電気・建築、空気調和設備について学ぶとともに、2級管工事管理技士（学科試験）の受験対策を行う。	1 後 2 前	60	○		○		○	
29	○		電気基礎・建築概論	電氣的な基礎知識を得られるよう、主にオームの法則について学び、次に電力および電力量と熱量の関係を学ぶ。	1 後	30	○		○		○	
30	○		測量に関する情報処理実習	地理院の地図データを基に測量関係ソフトを使って地理情報の基礎および測量のデータ処理への応用について学習する。	1 前	30			○	○	○	
31	○		三角測量実習	多角測量方式の三角測量の観測作業および計算・処理について学ぶ。	2 後	30			○	○	○	○
32	○		多角測量実習	セオドライトを用いた観測方法等について学ぶ。	1 後	60			○	○	○	○
33	○		汎地球測位システム測量実習	GPSの基本事項、基準点測量、リアルタイム・キネマティック法による測量、および、GPSに関する通信技術等について学ぶ。	2 後	30			○	○	○	○
34	○		水準測量実習	往観測・復観測の較差等について実習を通して学ぶ。	1 前	30			○	○	○	○
35	○		地形測量実習	アナログ平板、TSによる電子平板測量、電子平板成果CAD編集等について学ぶ。	1 前	60			○	○	○	○
36	○		写真測量実習	図化機の標定と地図作成、岡山市地図模型図の作成、立体視鏡によるリモートセンシング等について実習を通して学ぶ。	2 通	60			○	○	○	
37	○		地図編集実習	地図記号などの基本製図から、地形図の編集までの一連作業について実習を通して学ぶ。	2 後	45			○	○	○	
38	○		応用測量実習	道路中心線の設置にあたり、基本となる線形の決定や、測点の打設、縦・横断測量の実施、および、洞図の作成等について学ぶ。	2 後	60			○	○	○	○
39	○		CAD実習	AUTOCADを用いて測量・土木設計における利用法を学ぶ。	1 前	30			○	○	○	
40	○		設計製図	設計の基本からCADの設計計画製図まで行う。	1 前	30			○	○	○	
41	○		土質・材料実験実習（土、Co）	土木建設関係の材料（土・コンクリート）の実験を通して材料の品質の評価方法について学ぶ。	1 後	30			○	○	○	
42	○		ホームルーム	学生、人としての義務や責任、生き方、人間関係作り等について学ぶ。	1 通 2 通	60	○		○		○	
43	○		ビジネス教養	就職活動への取り組み方、職場でのマナーや態度について学ぶ。	1 通	30	○		○		○	
44	○		一般教養	社会人として知っておくべき、あるいは身につけておくべきマナーや態度、常識について学ぶ。	2 通	30	○		○		○	
合計					44科目	1,950単位時間（単位）						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件：次の条件を満たしていること。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。 ○履修方法：全科目必修。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

【企業等との連携授業について】

令和2年度より企業等と連携した演習・実習等の科目に、「多角測量実習」を設けた。